

北風と太陽

香芝市立香芝北中学校通信

NO.40 2025.1.28 文責 上谷基博

これからの社会を生きるみなさんに伝えたいこと。

1月が終わり、2月に入ります。残り僅かな日々、濃く行っときましょう。
先日『月刊 日本教育』という雑誌を読んでいると「企業が求めるのは人間力と被認知能力」という見出しで、次のような記述がありました。

経済団体が一昨年実施したアンケート(112社が回答)によると、「入社試験の評価ポイントの高いものは次のうちのどれですか(3つまで選択)」という問いで、91%と圧倒的に多かったのが「人間力・被認知能力(点数で測れない能力、リーダーシップ、コミュニケーション力など)」でした。次いで、「志望理由が明確」の53%、「やりたいことが具体的」の45%で、「学力試験の点数」は8%、「学歴(大学名)」は5%です。大学入試がゴールではなく、その先の社会でどれだけ活躍できる人になるかが問われているのです。

本校の学校教育目標はこの『北風と太陽』で毎回右上に示している「予測困難な時代をたくましく生き抜き、よりよい社会の創り手となる生徒の育成」です。みんな知ってくれてるよね！

コロナ禍でオンライン環境が急速に整備されました。これにより知識を学ぶだけならわざわざ学校に来なくても家庭で十分できるのかもしれませんが。ある意味、学校の存在意義が問われる時代なのだと思います。

それを考えた時、今回の記事にある「人間力・被認知能力(点数で測れない能力、リーダーシップ、コミュニケーション力など)」を身につけるにはやはり集団生活の場である学校や地域社会が果たす役割がとても大きいと考えます。普段の学校生活をはじめ、学校行事や部活動、生徒会活動やボランティア活動を通して身につけることができるのではないのでしょうか。

我々教職員は「生徒ファースト」の学校づくりを目指しています。それに応えるべくみなさんには主体性を持って大いにアクティブに行動してほしいです。他人をうらやましがったり、逆に見下したりせず、同じ未来を生きる同志として切磋琢磨しながら、必要な力をどんどんつけて行ってほしいな。



予測困難な時代をたくましく生き抜き、よりよい社会の創り手となる生徒の育成

700年以上変わらない文化、それは"百人一首"。

1年生は先週末の1月23日(金)、2年生は週明けの1月27日(月)に多目的室にて百人一首大会が開催されました。個人対抗、学級対抗ということで両学年とも熱戦が繰り広げられました。国語科の学習の一環でもあります。700年以上前から行われてきた伝統文化を継承することはとても大切です。国語科やHR等の授業を使って練習も行ってきただけです。そこでの実績にとも



なって競った勝負ができるようにレベルに応じたグループ分けが行われていたようです。最初はどのグループもお互い遠慮がちにメンバーが程良い距離をとって座っていますが、絵が進むにつれ各自の頭がどんどん近づいていきます。毎年この光景に「良い感じやな！」とほんわかしたのを感じます。時代が変わってもこの光景は変わらずであってほしいです。またこの

ように何事にも一生懸命取り組む生徒であってほしいです。因みに1年生の大会の冒頭で国語科の先生より、百人一首についての説明がありましたが、その中で700年前からある食べ物(デザート)についてのお話がありました。すごく興味深かったので書いていきますね。



世界に目を向けると"ブリュレ"、日本では"わらび餅"

だそうです。"わらび餅"は何となくイメージできますが、"ブリュレ"は予想外でした。

両学年とも個人の部で優秀な成績を修め、表彰された人、表彰された学級おめでとうございます。

もちろん表彰されていない圧倒的多数のみなさんもベストを尽くして闘った健闘を称えます！年度も終わりに近づき、行事ごともどんどん少なくなっていますが、1日1日を大切に何事に対しても一生懸命な生徒であってくださいね。

